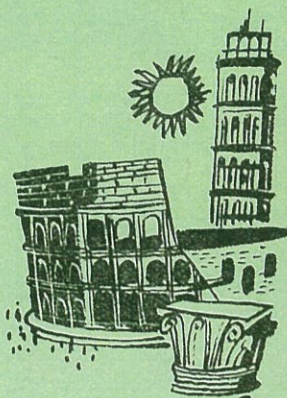


## 門倉輝子



始めて乗る国際線。何時も見えなれた羽田空港もこの日ばかりは、特別に見える。見送る両親始め大勢の方、店の人達の顔々々が強く心に残る。K・L・Mの飛行機のタラップに足をかけたあの瞬間、〃行ってらっしゃい!〃の声を背中に、いや全身に受けた時の気持は生涯忘れる事が出来ない。

未知の世界を見る事が出来る、希望、喜び、心配、感謝、複雑な胸の中。飛行機のドアがボタンと閉る。美しい夜空に輝く東京の灯に別れを告げて。

飛行機はどんどん飛んで行く。マニラの朝やけを眺め乍ら休憩。バンコック、ラングーン、カラチ。此処で、シャワーを浴びてさっぱりすると同時に、日本を遠く離れたな、という感情がしみじみ湧いて来る。陸地も何も見えない窓の外は、雲という素晴らしい生物が次々と型を変えて目を楽しませてくれる。

最後の寄航地、ベールートに着く。あと一息でローマ、途中時計を何度も戻しているので一日がとても長い。町が、建物が、道路が、矢継ぎ早やに目に入って来る。

〃さあ!! ローマに着いたのだ〃。心は踊る。空港のコンクリートを力一杯ふみしめて見る。

〃ローマ〃

ローマから第一歩が始まる。明るい都市で第二次大戦のあととは見つける事が出来ない。古代ローマの遺跡が沢山ある。いくら見ても全部を見る事がむずかしい程だ。

セントピエトロ寺院、カラカラ浴場等々。イロハがるたの〃ローマは一日にしてならず〃とは、昔の人

は良く教えてくれたものと感心する。近代ローマも、古代に負けず彫刻があり、建築も素晴らしい。来年のオリンピック競技場には目をみはる。

愛の泉にお金を入れて、映画〃ローマの休日〃を思い出す。丘の上って見渡すと、青い空、赤茶色の建物、白い寺院の塔、すべてがマッチしてどこを見ても絵になっている美しさだ。大理石の彫刻、又、町の広場にある大小さまざまな噴水から水がしぶきをあげているのは、素敵にロマンチックだ。

町を歩くと矢張りお菓子屋さんが目につく。ウインドーが大きな使命をはたしている。表通りに面した所は、すべてウインドーになっていて、季節のマロングラッセ、プチフル、チョコレート、鉛細工等で美しく、洒落れた飾りつけがしてある。店の中に入ると、ケースにお菓子がならび、好みのものを一コずつ立ち喰いしたり、また奥の喫茶室でコーヒーを飲んだり、楽しそうにお菓子屋さんで時を過している。工場の階段に大理石を使用して入るのにはさすが産地といえおどろく。

昼間から二時間もかけて、のんびり流しのギターを聞き、表の景色を眺め乍らの食事は実に楽しいもの。スパゲッティ、マカロニも種類や味の変化の多いのには嬉しくなる。

町には馬車が走り、自動車は小型車が巾を利かしている。お国柄、フィヤットが多い。馬車に乗って町の中を散歩したのも、良い思い出の一つ。皮製品は確かに素晴らしい。手袋一つにしても各サイズが豊富にある。朝早く市場を歩いて楽しい一時を過す。サボテンを立喰いして、味みしたのは面白かった。

ナポリ、ポンベイ観光日帰り旅行に出かける。終着駅で有名なテルミナ駅から、汽車が時間が来るとベルもなくスーッと発車してしまうのにはびっくりした。

ポンベイの遺跡の広大さに、そして又この様に立派な都会を作り上げた、古代の人達の努力に頭が下る。カメオの細工工場を見学。貝殻をコックツツと彫り上げて、あの美しいアクセサリーを産み出して行く工程を見て、イタリイ人が現在直も、芸術と結びついているのが良く判る。モザイクの細工物もしゃれて美しく、ネクタイ、帽子はローマの名産だけあって、中々良いものが沢山ある。感激のローマも、またたく間に日が経って、次の予定地ニスへ――